

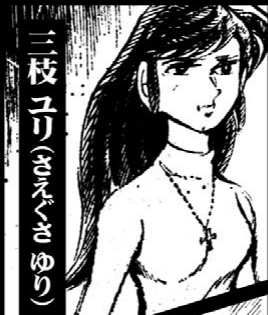


登場人物紹介



五代明(ごたいめい)

風早丈二(かざはやじょうじ)



三枝ユリ(さんえりゆり)



浅倉夕子(あさくらゆきこ)

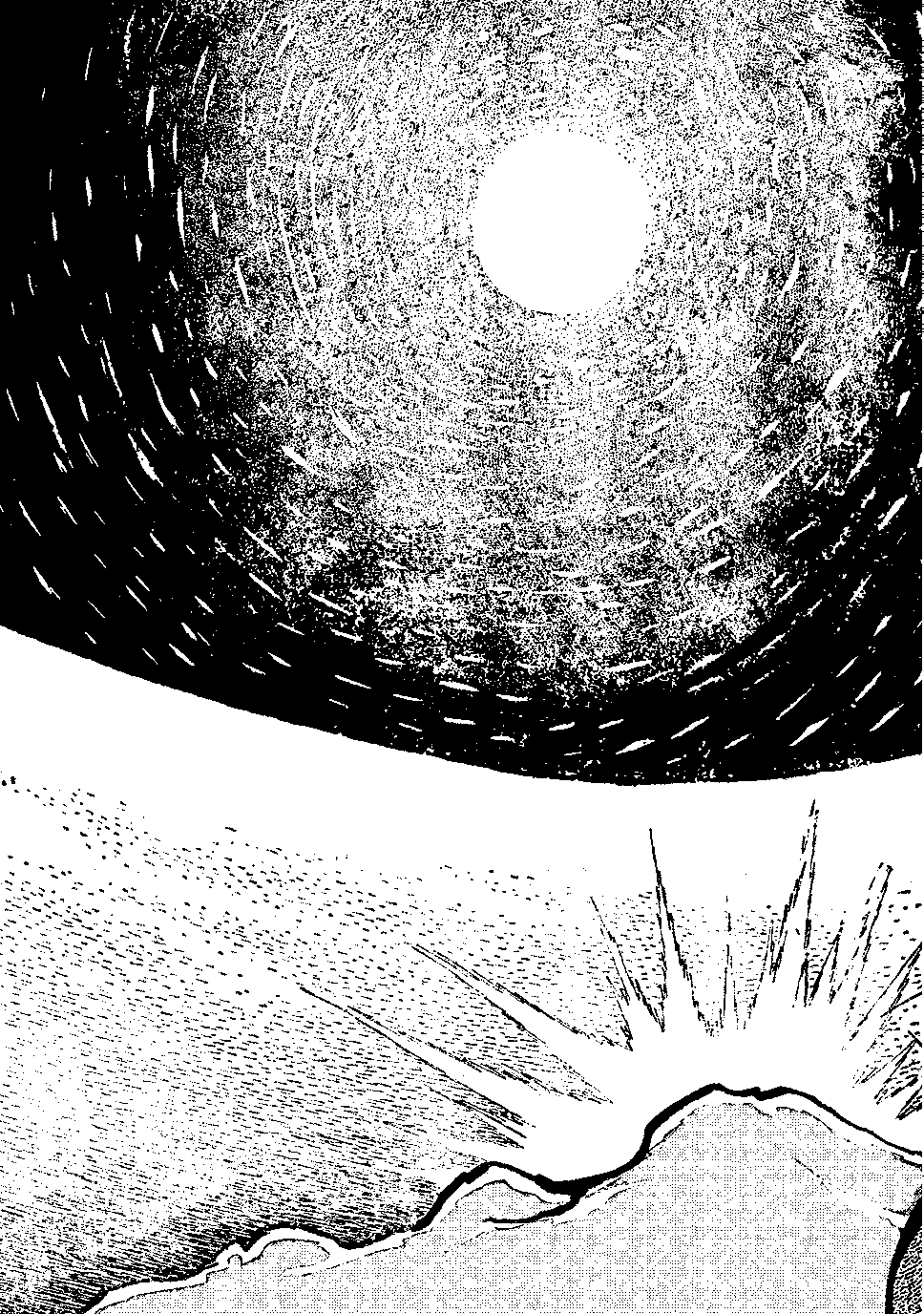


堂本主任



野間太一(のまたいち)

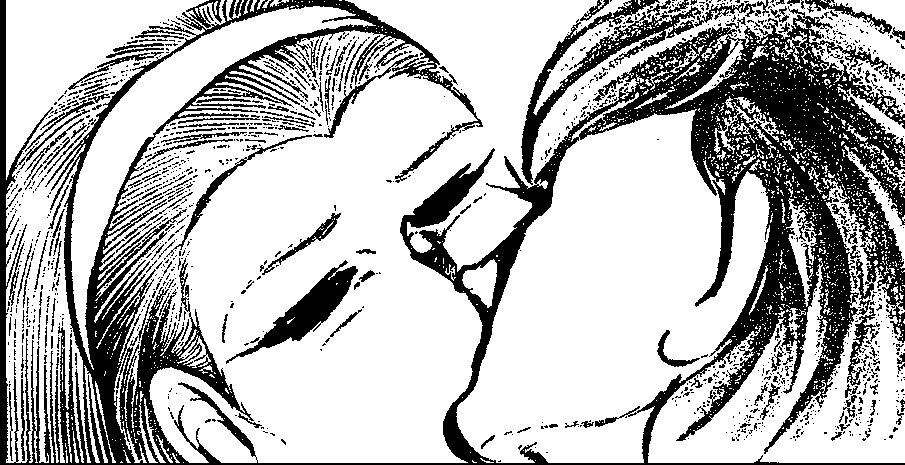
『とべない翼』下巻 初出
「週刊少年サンデー」(小学館)
1971年1号~17号





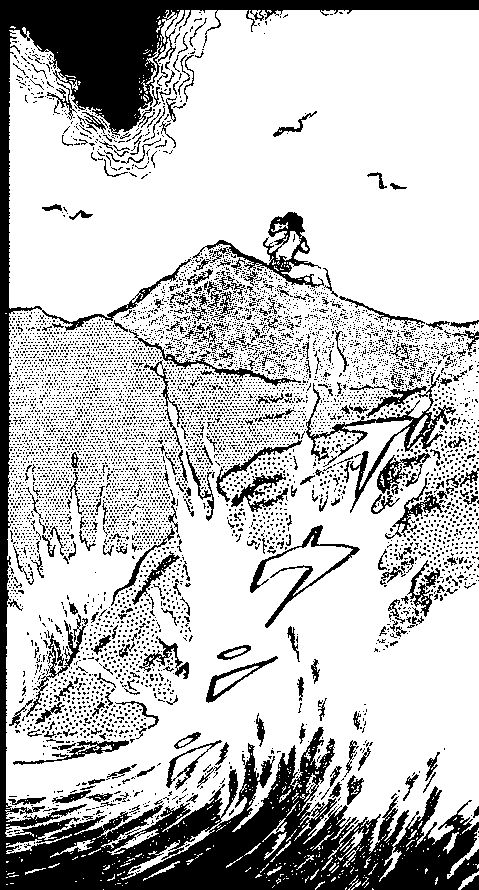
夕子さん
いったい
このぼくを
これほど...

愛して
しまったかと
いうのね...
それは明
あなたが



三枝ユリと
いったかしら、
あの娘と院の
面会室で熱い
接吻をかわして
いるところを
わたしにみせて
しまったから...

そりゃ
わたしは
病気の父になり
かわって院長代理
などという立場に
身をおいてるけど
男女のことについては
なにも知らないうぶな
二十歳の娘...よ。

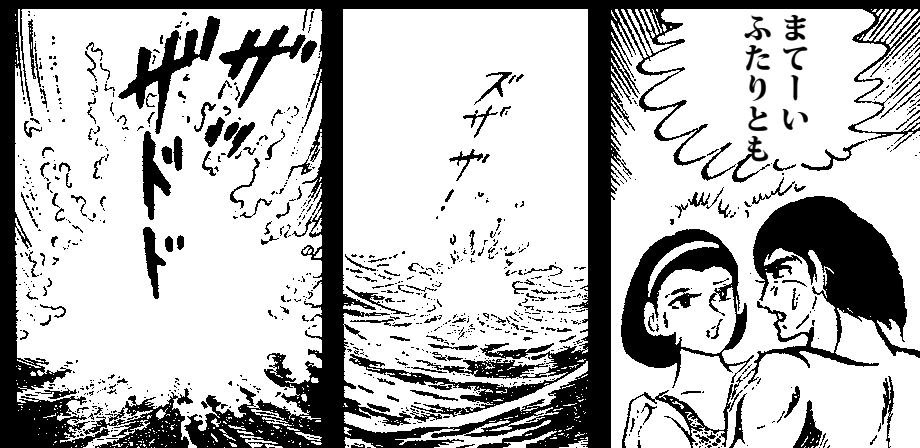
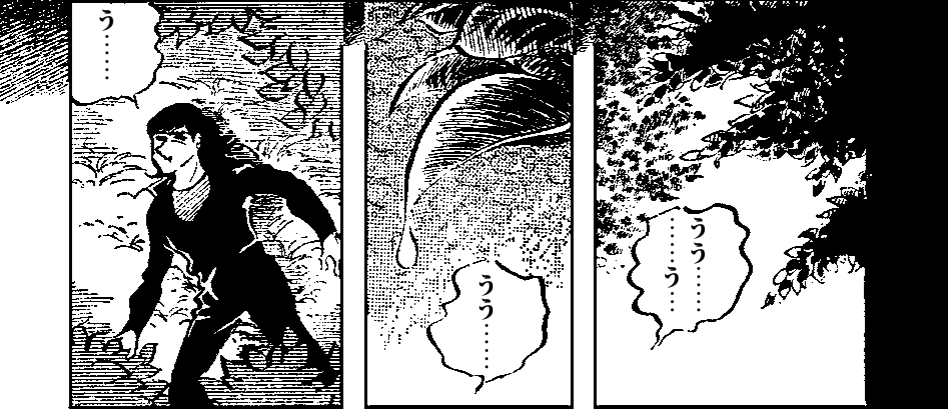


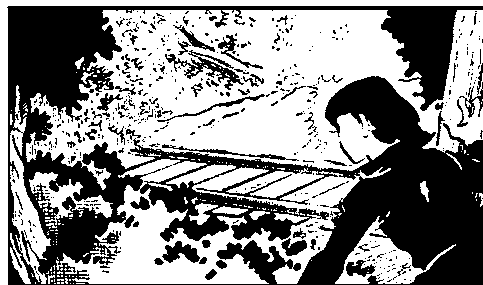
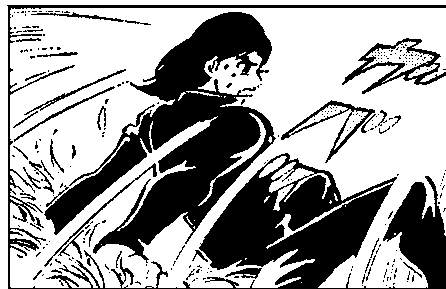
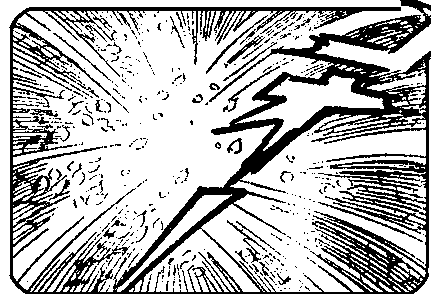
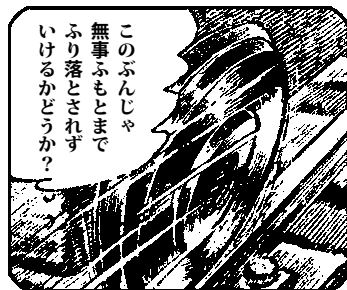
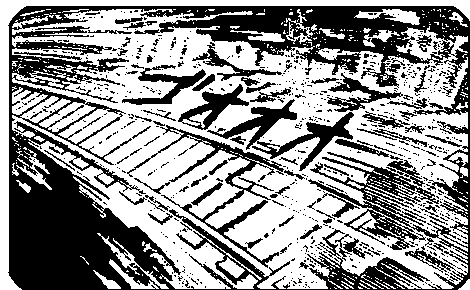
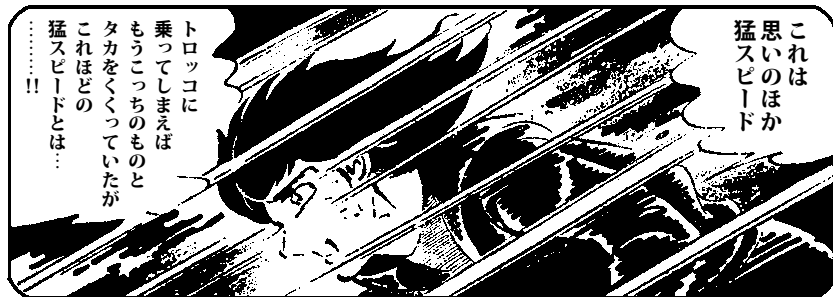
そんなわたしにとって
あの接吻場面は強烈すぎたわ、
ショックだったわ。
そして同時に、年下であるはずの
あなたという人間が、なにやら
とんでもない神秘の扉を開く
鍵を持った人のように見えたわけ。

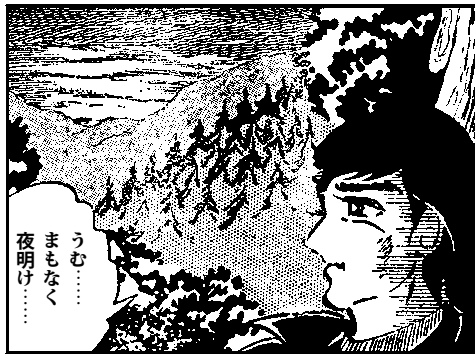
それが
明...
あなたへの恋の
急傾斜の
始まりよ。



夕子さん
明...







うむ……
まもなく
夜明け……



そうだ
あれっきり
気絶しちまっ
たんだ……



すると五時……
いや、冬もそろそろ
峠をこした季節だから
……そう、四時すぎって
ところか。

となると
おれの脱走を
知って追求に乗り
だした教官どもにしても
すでに十時間以上も
たっていることだし
いくら何でも、もう
あきらめたことだろうて。



さっそく
駅あたりに網を
はったものは
おれがひつかからん
もので、後手に
まわったと早のみこみ
として、警戒網を
といたしたら
今ごろ駅は
ガラあきのはず。

フフフ……
では、さっそく
逃亡作戦に
とりかかると
するか。



教官ども
まさかおれが途中で
トロッコからふり落とされて
気絶しているなどは
思いもせんだらうから。

ふむ……こりゃ
考えようじゃ
災い転じて福に
なるかも
知れんぞ。



つう
!!が

